

茨城県教育財団文化財調査報告第230集

島名一町田遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業
及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成 16 年 3 月

茨 城 県
日本鉄道建設公団関東支社
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第230集

しま な いっ ちょう だ
島名一町田遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業
及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成 16 年 3 月

茨 城 県
日本鉄道建設公団関東支社
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は平成7年に長期総合計画を策定し、県土の発展と県民生活の向上に向けての施策を推進してまいりました。その一環として陸・海・空の広域交通ネットワークの確立と、それに伴う新たな都市づくりにより、便利で文化性の高い快適な県民生活の実現を目指しています。

日本鉄道建設公団関東支社は、昭和60年7月の21世紀を展望した東京圏における高速鉄道を中心とする交通網の整備に関する運輸省政策審議会答申及び「大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法」に基づいて計画された、東京都の秋葉原を起点として、埼玉県、千葉県を通り茨城県守谷市、伊奈町、谷和原村を経てつくば市の筑波研究学園都市に至る延長約58kmのつくばエクスプレスの建設・整備を進めております。この事業により、県南・県西地域の交通を充実させ、沿線地域を活性化する効果が期待されています。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県と日本鉄道建設公団関東支社より事業予定地内に所在する島名一町田遺跡の発掘調査についての委託を受け、平成14年4月から発掘調査を実施しました。

本書は、島名一町田遺跡の調査成果を収録したものです。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県と日本鉄道建設公団関東支社から多大なる御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、衷心より感謝申し上げます。

平成16年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤佳郎

例 言

- 1 本書は、茨城県（県南都市建設事務所）と日本鉄道建設公団関東支社の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成14年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字島名字前野3796番地の3ほかに所在する島名一町田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調 査 平成14年4月1日～4月30日
整 理 平成15年7月1日～7月31日
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査第一課長阿久津久のもと、調査第一課第1班長鯉淵和彦、主任調査員飯泉達司、副主任調査員駒澤悦郎が担当した。
- 4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第一課長瓦吹堅のもと、調査員鹿島直樹が担当した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = +5,600\text{m}$ 、 $Y = +20,640\text{m}$ の交点を基準点（A 1 a1）とした。なおこの原点は、日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……, 西から東へ1, 2, 3……とし、「A 1区」、「B 2区」のように呼称した。さらに大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c……j, 西から東へ1, 2, 3……0とし、名称は大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

2 抄録の北緯及び東経の覧には、世界測地系に基づく緯度・経度を（ ）を付して併記した。

3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 住居跡—S I 土坑—S K

遺物 拓本記録土器—T P 石器—Q 金属器・金属製品・古銭—M

4 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

■ 炉・焼土・赤彩

● 土器 △金属器・金属製品 ———— 硬化面

5 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

6 土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。

7 遺構・遺物実測図及び遺物観察表等の作成方法と掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は200分の1、遺構は原則的に60分の1に縮尺して掲載したが、種類や大きさにより異なる場合もある。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にしたが、種類や大きさにより異なる場合もある。

(3) 「主軸」は、炉を持つ竪穴住居跡については炉を通る軸線とし、他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

(4) 遺物の計測値の単位はcm, gで、現存値は（ ）で、推定値は[]を付して示した。

(5) 遺物観察表の備考の欄は、残存率及びその他必要と思われる事項を記した。

(6) 遺物番号については挿図、観察表、写真図版それぞれの番号を同一とした。

抄 録

ふりがな	しまないっちょうだいせき							
書名	鳥名一町田遺跡							
副書名	鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第230集							
編著者名	鹿島直樹							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029(225)6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029(225)6587							
発行年月日	2004（平成16）年3月26日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
しまないっちょうだ 鳥名一町田 いせき 遺跡	いばらきけん し おおあざしま 茨城県つくば市大字鳥 な あざまえの ばんち 名字前野3796番地の3 ほか	08220 076	36度 02分 55秒 (36度 03分 06秒)	140度 03分 40秒 (140度 03分 28秒)	19) 22m	20020401) 20020430	2001m ²	鳥名・福田 坪一体型特 定土地区画 整理事業及 び常磐新線 建設事業に 伴う事前調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
鳥名一町田 遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡	1軒	弥生土器（壺）土師器 （坏・甕）		弥生土器が共伴し ている。	
	墓域	近世	地下式墳	1基	金属製品（古銭・煙管 ・銅鏡），骨片			
	その他	時期不明	土坑	64基	縄文土器（深鉢）			

目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	5
第1節 遺跡の概要	5
第2節 遺構と遺物	9
1 古墳時代の遺構と遺物	9
竪穴住居跡	9
2 近世の遺構と遺物	10
地下式墳	10
3 その他の遺構と遺物	12
(1) 土坑	12
(2) 遺構外出土遺物	22
第3節 まとめ	23
写真図版	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成8年10月17日、日本鉄道建設公団関東支社長（平成14年3月まで首都圏新都市鉄道株式会社社長）は、茨城県教育委員会教育長に対して、常磐新線計画地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成10年5月18日に現地踏査を行い、事業着手前に全区間詳細なる現地踏査及び試掘が必要となる旨回答し、平成13年12月14日に鳥名地区の現地踏査を実施した。続いて平成14年1月22～24日、同月29日にかけて試掘を実施し、平成14年2月8日、茨城県教育委員会教育長は日本鉄道建設公団関東支社長あてに、事業地内に鳥名一町田遺跡が存在する旨回答した。

また、遺跡が茨城県施工範囲にまで及ぶことから、以後、茨城県も調査について手続きを行うこととなった。

茨城県知事は平成14年2月22日に、日本鉄道建設公団関東支社長は同年2月28日に、それぞれ茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、同年3月1日、茨城県知事及び日本鉄道建設公団関東支社長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成14年3月1日、茨城県知事及び日本鉄道建設公団関東支社長は、茨城県教育委員会教育長に対して常磐新線事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。同日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事及び日本鉄道建設公団関東支社長あてに発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事及び日本鉄道建設公団関東支社長から埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成14年4月1日から同年4月30日まで鳥名一町田遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

鳥名一町田遺跡の調査は、平成14年4月1日から平成14年4月30日までの1か月間実施した。

工程	月	4月		
調査準備 表土除去 遺構確認				
遺構調査				
遺物洗浄 注記作業 写真整理				
補足調査 及び 撤収準備				

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

鳥名一町田遺跡は、茨城県つくば市大字鳥名字前野3796番地の3ほかに所在している。

つくば市は茨城県の南西部に位置し、当遺跡はつくば市南西部の旧筑波郡谷田部町に所在する。つくば市の地形は、北に八溝山系の一つである筑波山塊の主峰筑波山がそびえ立ち、南には常総台地が広がり、その一部に桜川と小貝川に区切られた筑波・稲敷台地が存在する。この台地は成田層と呼ばれる貝化石の多い砂礫層を主体とし、その上に龍ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層（0.3～5.0m）、褐色の関東ローム層（0.5～2.0m）が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の鳥名地区は、東谷田川と西谷田川に挟まれた台地上に位置している。当遺跡は標高20mの台地中央部に立地し、北方250mに鳥名前野東遺跡が、南方200mに鳥名境松遺跡が所在している。当遺跡の調査前の現況は更地である。

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺の地域は地形的に変化に富み、小貝川、東谷田川、西谷田川、蓮沼川などの流域は、古くから人々が生活を営む場として適しており、このことは周辺遺跡の分布状況からもうかがい知ることができる。ここでは当遺跡周辺の主な遺跡について、時代を追って述べる。

旧石器時代の遺跡としては、東谷田川右岸の鳥名前野東遺跡<4>や鳥名境松遺跡<5>、東谷田川支流の蓮沼川左岸の荻間神田遺跡<6>、西谷田川右岸の根崎遺跡<7>や西栗山遺跡<8>が存在する。これらの遺跡からはナイフ形石器や石刃などが出土しているが、遺構に伴うものではない。

縄文時代には、小貝川や東谷田川、西谷田川などの河川に面した台地縁辺部に集落が形成されるようになる。代表的な遺跡としては、東谷田川右岸の台地上に立地している境松貝塚²⁾<9>をあげることができる。前期から中期にかけての遺構や、地点貝塚が確認されて注目された。当遺跡の周辺では、東谷田川右岸の台地上に位置する鳥名前野東遺跡³⁾・鳥名境松遺跡⁴⁾、西谷田川左岸の台地上に位置する鳥名ツバタ遺跡<10>などに中期の遺構が存在することが当財団の調査により明らかになった。この時期も、内陸部に集落を形成することはまれで、河川や谷津に面した台地縁辺部にほとんどの遺跡が形成されている。

弥生時代の遺跡は当地域では少なく、谷田部地区では後期の遺物が出土した境松貝塚などが確認されているだけである。

古墳時代になると、遺跡数は急激に増加する。昭和34年に行われた谷田部地区の分布調査では、古墳群11か所、古墳約300基が確認され⁵⁾、東谷田川流域には、古墳群15か所、古墳102基が知られ、当遺跡周辺にも、鳥名関ノ台古墳群<15>、面野井古墳群<16>、鳥名熊の山古墳群<17>、鳥名榎内古墳群<18>、西大橋中内台古墳群<19>などの古墳群や、鳥名前野古墳<23>、西大塚山古墳<24>などの古墳が確認されている。とくに面野井2号墳からは、旧谷田部町域唯一の小形仿製鏡（四獣鏡）が出土して注目されている。

当遺跡周辺の集落跡は、当財団の調査によって古墳時代を通して生活が営まれた鳥名熊の山遺跡⁶⁾<25>、鳥名前野遺跡⁷⁾<26>、鳥名前野東遺跡などが確認されている。また、谷田部漆遺跡⁸⁾<27>では中期、鳥名境松

遺跡や鳥名薬師遺跡<28>では後期の集落跡が確認されている。今後、谷田部福田遺跡<29>、鳥名本田遺跡<30>、鳥名関ノ台遺跡<31>、面野井南遺跡<32>などの遺跡の性格把握が待たれるところである。

奈良・平安時代には、鳥名地区は河内郡に編入される。河内郡衙は、当遺跡から北東へ8kmの距離に位置する桜地区の金田西遺跡・金田西坪A遺跡・金田西坪B遺跡付近に所在する⁹⁾。

当遺跡の所在する鳥名地区は、『和名類聚抄』の「嶋名郷」に比定され¹⁰⁾、郷内に所在する鳥名熊の山遺跡は、古墳時代前期に集落が形成されはじめてから、奈良・平安時代まで竪穴住居1300軒以上という鳥名地区最大の拠点的な集落であり、ほかにも鳥名八幡前遺跡<42>や苅間六十日遺跡<43>、谷田部福田前遺跡<44>などが確認されている。

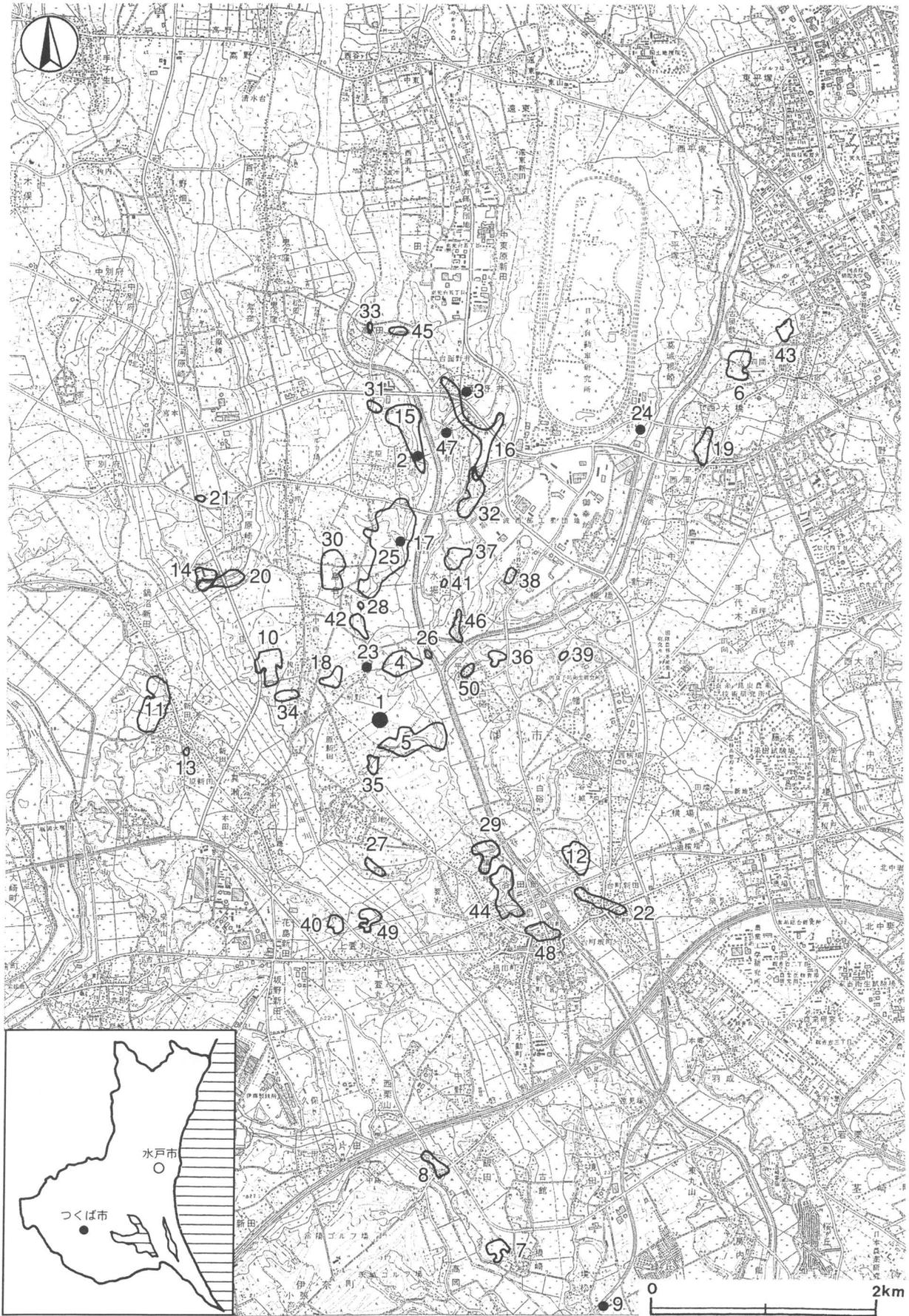
中世に、鳥名地区は田中荘と呼ばれている。鎌倉幕府の成立後、八田知家の入部によって多毛義幹が没落し、田中荘は小田氏の支配下に入る。室町時代の当遺跡周辺は、小田氏配下の平井手氏が面野井城<47>を構えて鳥名・面野井に住していたといわれている¹¹⁾。中世以降、確認される遺跡は城館跡がほとんどであり、鳥名前野東遺跡では方形に巡る堀を伴う居館跡が確認されている。

近世の谷田部は大部分が谷田部藩領となり、鳥名地区は旗本領となっている。

※ 文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の該当番号と同じである。

註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会 『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 久野俊度「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内文化財調査報告書 境松遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集 1987年3月
- 3) 寺門千勝「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ 鳥名前野東遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 4) 田原康司「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ 鳥名境松遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 5) 谷田部町教育委員会 谷田部町文化財保存会「谷田部町文化財報告Ⅰ」『古墳総覧』1960年3月
- 6) 稲田義弘「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 7) 藤田哲也・川上直登・稲田義弘「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ 鳥名前野遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 8) 梅澤貴司「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ 谷田部漆遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 9) 白田正子「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ 金田西遺跡・金田西坪B遺跡・九重東岡廃寺」『茨城県教育財団文化財調査報告』第209集 2003年3月
- 10) 池邊 彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』吉川弘文館 1981年2月
- 11) 谷田部町教育委員会 谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』1975年9月



第1図 島名一町田遺跡周辺遺跡分布図

第3章 調査の成果

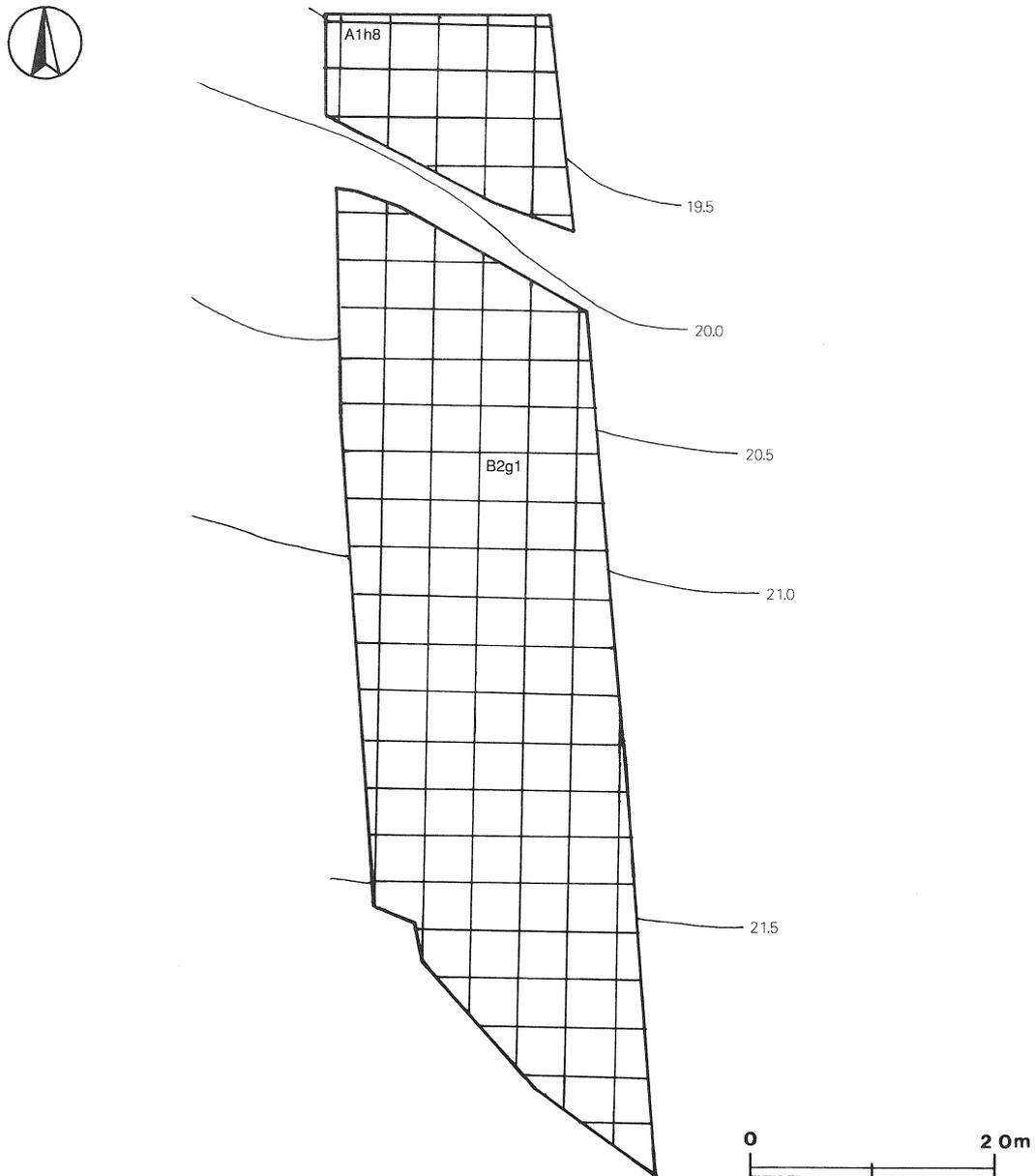
第1節 遺跡の概要

島名一町田遺跡は、古墳時代から近世にかけての複合遺跡である。

今回の調査によって、古墳時代の竪穴住居跡1軒、近世の地下式壙1基や時期・使用目的が不明の土坑64基が確認された。遺物は、土師器や金属製品を中心に遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に2箱出土している。

古墳時代の遺構は、前期の竪穴住居跡が1軒確認され、弥生時代から古墳時代への過渡期の住居跡として貴重な資料となる。

近世の遺構として、地下式壙が検出されており、骨片や副葬品と考えられる古銭・煙管・銅鏡などが出土している。



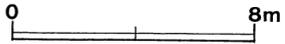
第2図 島名一町田遺跡調査区設定図

第1表 島名一町田遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
1	島名一町田遺跡				○			○	26	島名前野遺跡		○		○	○		
2	島名関ノ台南B遺跡				○	○		○	27	谷田部漆遺跡		○		○			
3	面野井北ノ前遺跡				○	○	○	○	28	島名薬師遺跡				○			
4	島名前野東遺跡		○		○				29	谷田部福田遺跡		○		○			
5	島名境松遺跡		○		○		○		30	島名本田遺跡				○		○	○
6	苺間神田遺跡	○	○		○	○	○	○	31	島名関の台遺跡				○			
7	根崎遺跡		○		○	○			32	面野井南遺跡				○	○		○
8	西栗山遺跡	○	○		○				33	高田和田台遺跡				○			
9	境松貝塚		○	○	○				34	島名榎内遺跡				○			
10	島名ツバタ遺跡	○	○		○		○	○	35	島名タカドロ遺跡		○		○			
11	真瀬山田遺跡		○		○				36	平北田遺跡				○			
12	谷田部台成井遺跡		○						37	水堀下道遺跡				○			
13	真瀬新田谷津遺跡		○						38	水堀遺跡				○			
14	下河原崎高山遺跡		○						39	柳橋遺跡				○			○
15	島名関ノ台古墳群				○				40	真瀬三度山遺跡		○		○			
16	面野井古墳群				○				41	水堀屋敷添遺跡		○		○			○
17	島名熊の山古墳群				○				42	島名八幡前遺跡				○	○	○	
18	島名榎内古墳群				○				43	苺間六十目遺跡			○	○	○	○	○
19	西大橋中内台古墳群				○				44	谷田部福田前遺跡		○		○	○		
20	下河原崎高山古墳群				○				45	高田遺跡					○		○
21	下河原崎古墳群				○				46	水堀道後前遺跡					○		
22	谷田部台町古墳群				○				47	面野井城跡						○	
23	島名前野古墳				○				48	谷田部城跡						○	○
24	西大橋塚山古墳				○				49	上萱丸古屋敷遺跡				○		○	○
25	島名熊の山遺跡				○	○	○	○	50	平後遺跡				○			○



第3図 鳥名一町田遺跡遺構全体図



第2節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で、古墳時代では竪穴住居跡1軒を確認した。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第1号住居跡（第4図）

位置 調査区北部のA1j9区に位置し、標高20mほどの緩斜面部に立地している。

規模と形状 一辺2.6mほどの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は10cmほどで、各壁とも緩斜して立ち上がっているが、北部は斜面部のため明確ではない。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、壁溝は検出されていない。

炉 床の中央部北東寄りに付設されている。長径44cm、短径34cmの楕円形を呈し、床面を若干掘りくぼめた地床炉である。炉床面は被熱により赤変硬化し、凹凸が著しい。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量

ピット 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

覆土 2層からなる。ロームブロックが多量に含まれている人為堆積である。

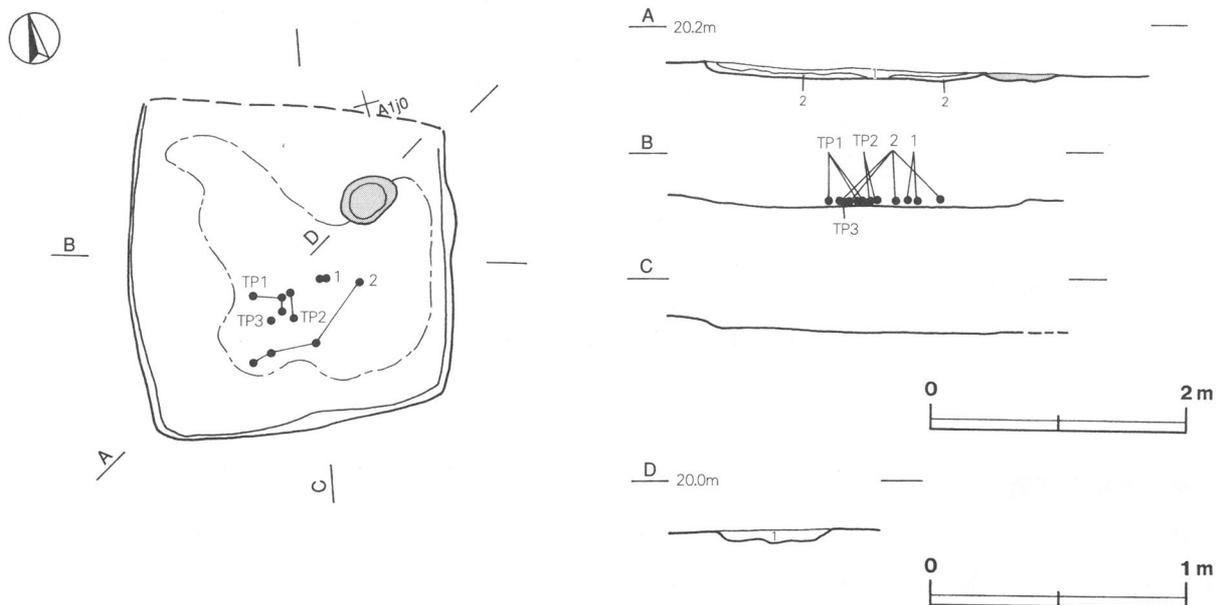
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

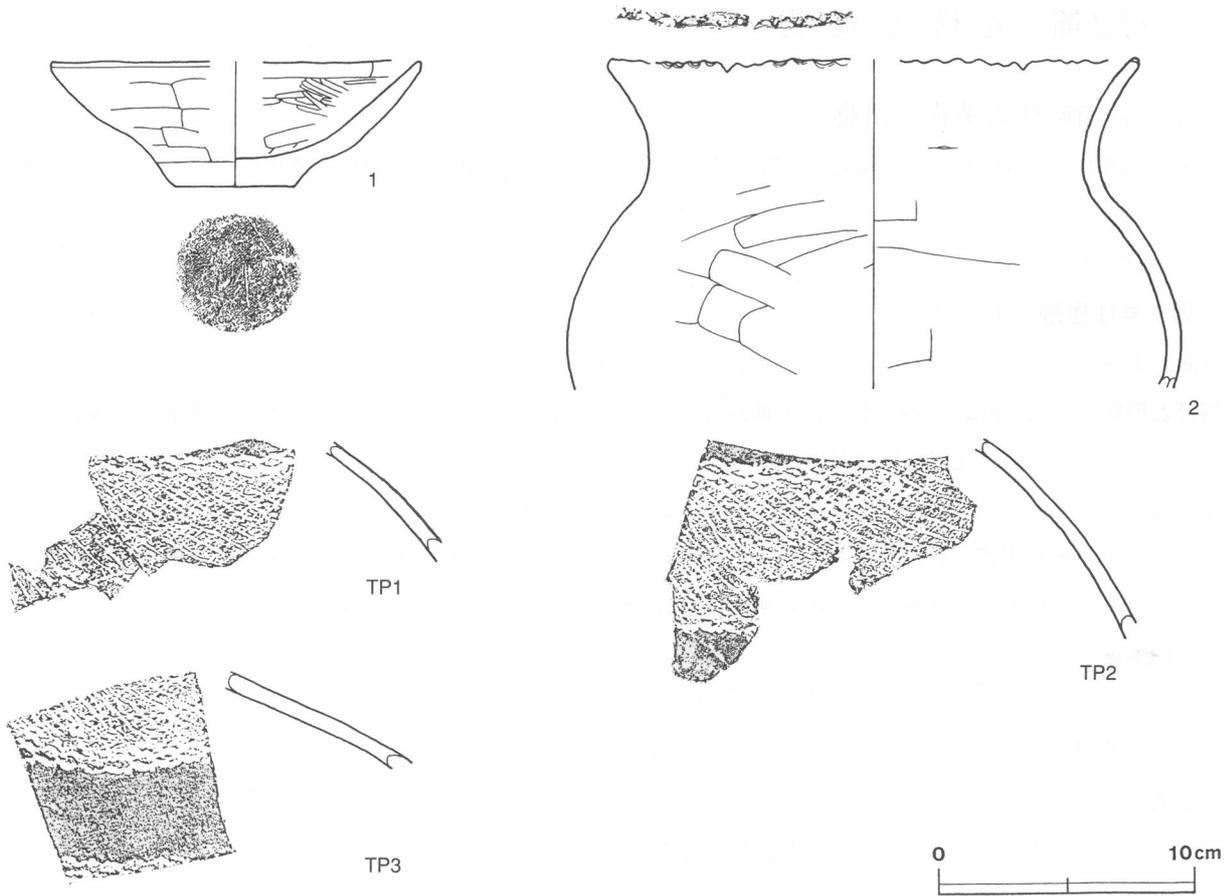
2 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 弥生土器片18点（壺18），土師器片164点（坏1，甕163）が出土している。出土した土器片のうち、TP1～3や1・2は中央部の覆土下層から集中して出土しており、住居廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から4世紀中葉に廃絶されたものと考えられる。



第4図 第1号住居跡実測図



第5図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.4]	4.9	4.6	石英・長石	にぶい褐色	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き，ヘラナデ	覆土下層	80% PL5
2	土師器	甕	[20.6]	(12.9)	—	長石・雲母	にぶい褐色	普通	口辺～頸部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	15% PL5

T P 番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
1・2・3	弥生時代後期後半	壺型土器の胴部上位に網目状燃糸文端部にS字状結節回転文，燃糸文部帯2段，無文部帯赤彩。口辺部，体部下位欠損。	覆土下層	PL5

2 近世の遺構と遺物

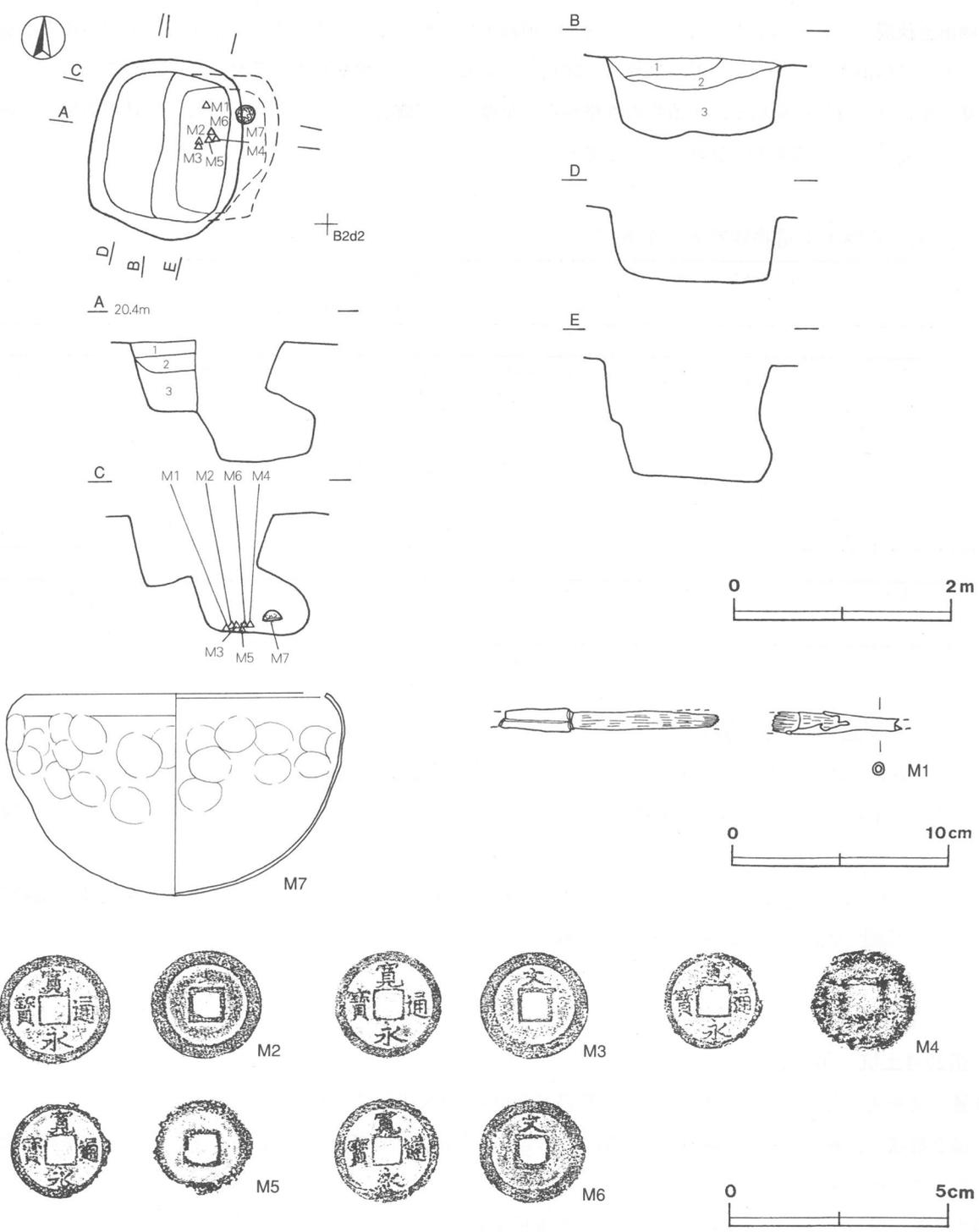
今回の調査で，近世では地下式墳1基を確認した。以下，検出した遺構と遺物について記述する。

地下式墳

第1号地下式墳（第6図）

位置 調査区北部のB2c1区に位置し，標高20.5mの台地平坦部に立地している。

竪坑 長軸1.68m，短軸1.4mの隅丸長方形で，主軸方向はN-10°-Eである。深さは0.64mで，壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦であるが，東半分は一段深くなり，主室となる。



第6図 第1号地下式壙・出土遺物実測図

主室 長軸1.36m, 短軸1.00mの長方形で, 主軸方向はN-2°-Eである。深さは0.60mで, 確認面から約1.2mである。壁は外傾して立ち上がっているが, 一部内彎して立ち上がる。床面は平坦であり, 東半分はロームを掘り抜き, 天井部として残している。

覆土 主室の土層観察はできなかった。堅坑は3層からなり, ロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 金属製品7点（古銭5，煙管1，銅鏡1）が出土している。これらは主室北東部の覆土下層から集中して検出され，また，付近には骨片が散乱していることから埋葬時の副葬品と考えられる。

所見 本跡は，骨片の検出や出土遺物の性格から，墓壙として機能していたと考えられ，鉄鉢型のM7は興味深い。時期は，出土遺物から18世紀中葉と考えられる。

第1号地下式壙出土遺物観察表（第6図）

番号	器種	長さ	雁首装着部径	吸口部径	重量	特 徴 ほか	出土位置	備考
M1	煙管	(16.0)	(0.8~1.1)	(0.6~1.1)	(8.1)	火皿欠損，ラウ・吸口一部欠損，金属部銅製。	覆土下層	70% PL6

番号	銭 名	径	孔	厚さ	重量	初鋳年	材 質	特 徴	出土位置	備考
M2	寛永通宝	2.6	0.6	0.1	2.8	1697年	銅	新寛永	覆土下層	PL6
M3	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	3.0	1668年	銅	背面に「文」	覆土下層	PL6
M4	寛永通宝	2.2	0.7	0.1	(1.3)	1697年	銅	新寛永	覆土下層	95% PL6
M5	寛永通宝	2.2	0.7	0.1	(2.2)	1697年	銅	新寛永	覆土下層	95% PL6
M6	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	3.1	1668年	銅	背面に「文」	覆土下層	PL6

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M7	銅鏡	14.0	9.4	—	288.2	銅	口辺部内彎，体部上位凹凸面（叩き痕）有り	覆土下層	PL6

3 その他の遺構と遺物

今回の調査では，時期及び性格不明の土坑64基が検出されている。以下，遺物が出土した土坑については解説と遺構と遺物の実測図を載せ，遺物が検出されなかった土坑については遺構の実測図及び観察表を記載する。

また，試掘，表土除去，遺構確認の段階で検出された，遺構に伴わない遺物については，特色ある遺物を抽出して，実測図を掲載し，解説は観察表で記載する。

(1) 土坑

第20号土坑（第7図）

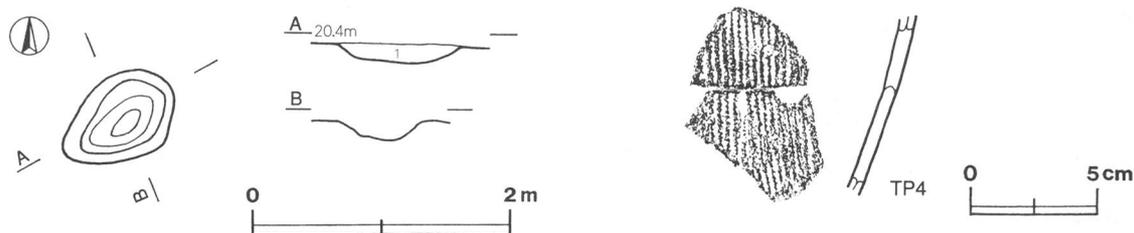
位置 調査区中央部のB 2 e1区に位置し，標高21.0mの台地平坦部に立地している。

規模と形状 長軸0.98m，短軸0.66mの楕円形を呈し，主軸方向はN-57°-Eで，深さは17cmである。底面は皿状で，壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ローム粒子を含んだ自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量



第7図 第20号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が覆土中から出土しているが、本跡に伴うものとは考えられない。
所見 時期は、本跡に伴う遺物がないため不明であり、性格も形状からは判断できない。

第20号土坑出土遺物観察表（第7図）

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
4	縄文時代早期前葉	燃糸文	覆土中	PL5

第24号土坑（第8図）

位置 調査区中央部のB1g9区に位置し、標高21.0mの台地平坦部に立地している。第29・31・32・73号土坑が南西側に位置している。

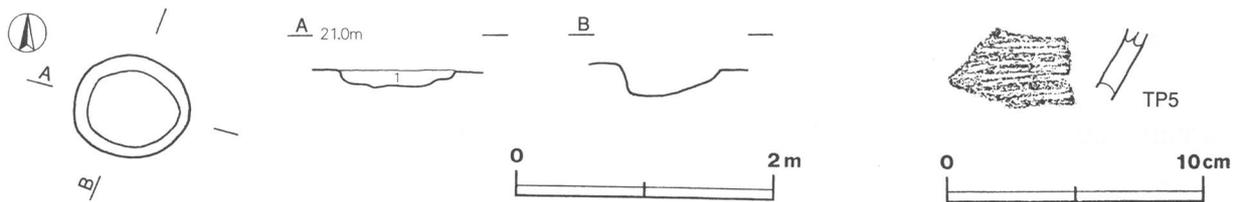
規模と形状 長軸0.90m、短軸0.80mの楕円形を呈し、主軸方向はN-78°-Wで、深さは24cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ローム粒子を含んだ自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢3）が覆土中から出土しているが、本跡に伴うものとは考えられない。
所見 時期は、本跡に伴う遺物がないため不明であり、性格も形状からは判断できない。



第8図 第24号土坑・出土遺物実測図

第24号土坑出土遺物観察表（第8図）

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
5	縄文時代早期前葉	燃糸文	覆土中	

第41号土坑（第9図）

位置 調査区中央部のC1a0区に位置し、標高21.5mの台地平坦部に立地している。

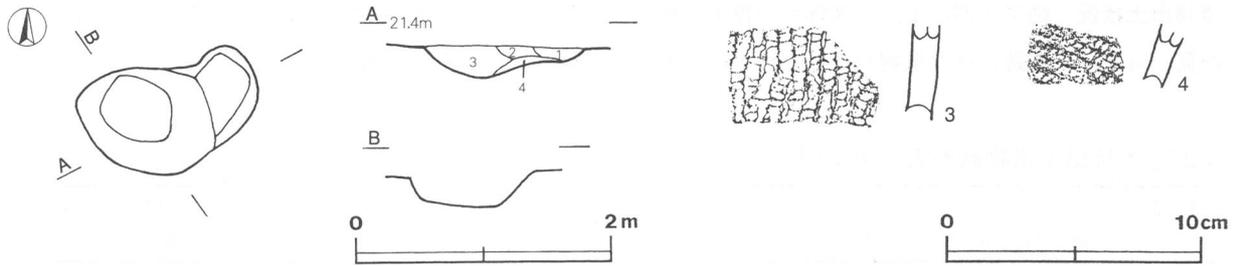
規模と形状 長軸1.34m、短軸0.86mの不定形を呈し、主軸方向はN-57°-Eで、深さは24cmほどである。底面は東側で段をなし、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層からなる。ローム粒子等を含んだ堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量、締まり弱
- 4 暗褐色 ロームブロック微量、締まり強

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）が覆土中から出土しているが、本跡に伴うものとは考えられない。
所見 時期は、本跡に伴う遺物がないため不明であり、性格も形状からは判断できない。



第9図 第41号土坑・出土遺物実測図

第41号土坑出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
3	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	R Lの単節縄文	覆土中	10% PL5
4	縄文土器	深鉢	—	(2.5)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	L Rの単節縄文	覆土中	10%

第71号土坑（第10図）

位置 調査区北部のB 1 c0区に位置し、標高20.5mの台地平坦部に立地している。

規模と形状 長軸0.96m、短軸0.87mの楕円形で、主軸方向はN-64°-Eで、深さは24cmである。底面は皿状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

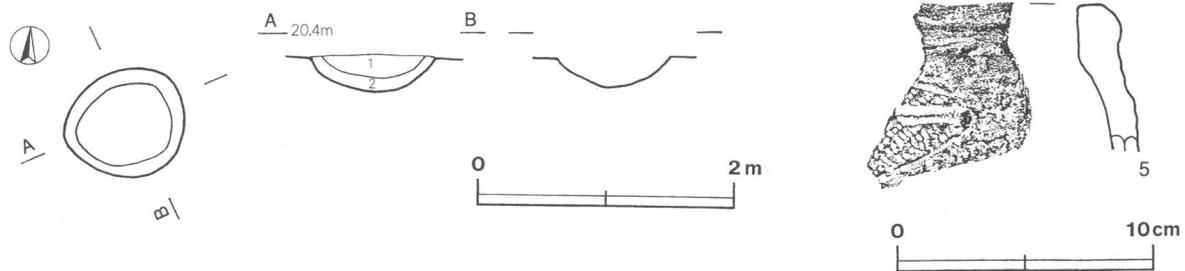
覆土 2層からなる。ロームブロックを多く含んだ人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、締まり弱

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）、土師器片1点（甕）が覆土中から出土しているが、本跡に伴うものとは考えられない。

所見 時期は、本跡に伴う遺物がないため不明であり、性格も形状からは判断できない。



第10図 第71号土坑・出土遺物実測図

第71号土坑出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部区画帯内にL Rの単節縄文	覆土中	10% PL5

第75号土坑（第11図）

位置 調査区北部のB 1 e0区に位置し、標高20.5mの台地平坦部に立地している。第17・18号土坑が北側に位置している。

重複関係 第72号土坑に西部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸0.62m、短軸0.70mの長方形を呈し、主軸方向はN-66°-Eで、深さは16cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなる。一方向からの堆積状況を示した人為堆積である。

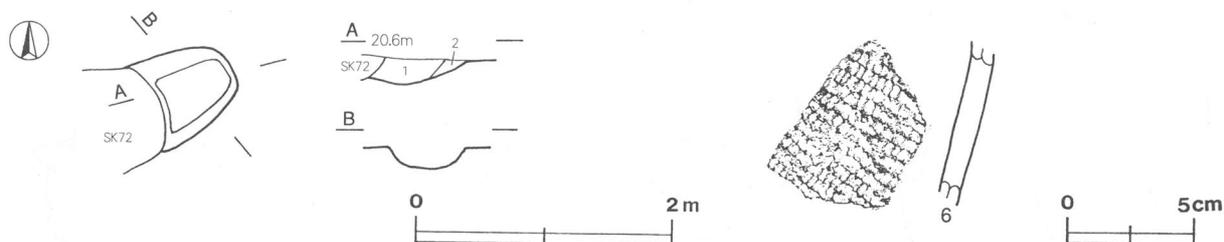
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢1）が覆土中から出土しているが、本跡に伴うものとは考えられない。

所見 時期は、本跡に伴う遺物がないため不明である。



第11図 第75号土坑・出土遺物実測図

第75号土坑出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	R Lの単節縄文	覆土中	10% PL5

その他の土坑土層解説

第1号土坑土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

第2号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ローム粒子多量

第3号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

第4号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

第5号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック中量

第6号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

第7号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

2 極暗褐色 ロームブロック微量

第8号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

3 暗褐色 ロームブロック微量

第9号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

第10号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

3 極暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子中量

第11号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

第12号土坑土層解説

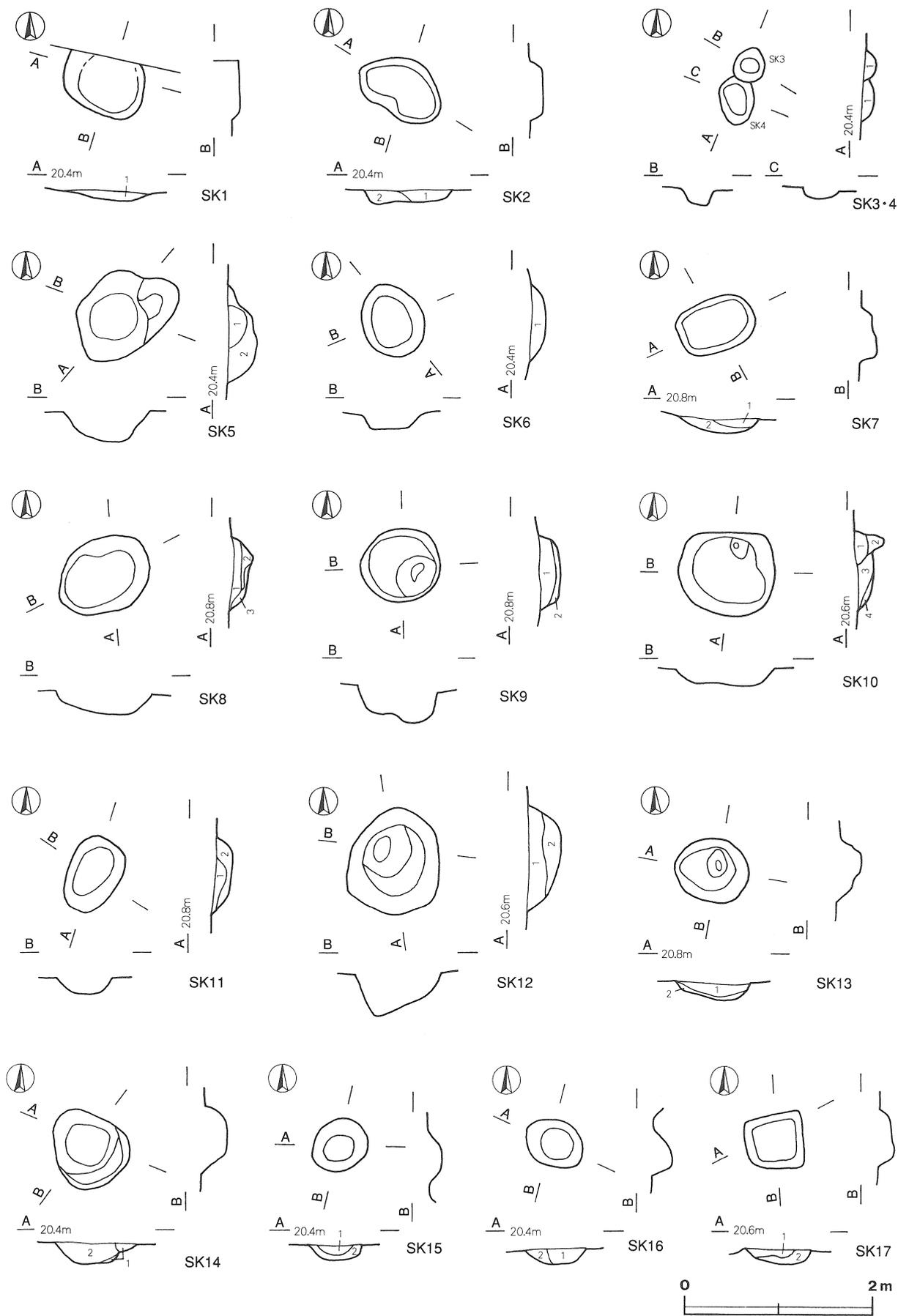
1 暗褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ローム粒子微量

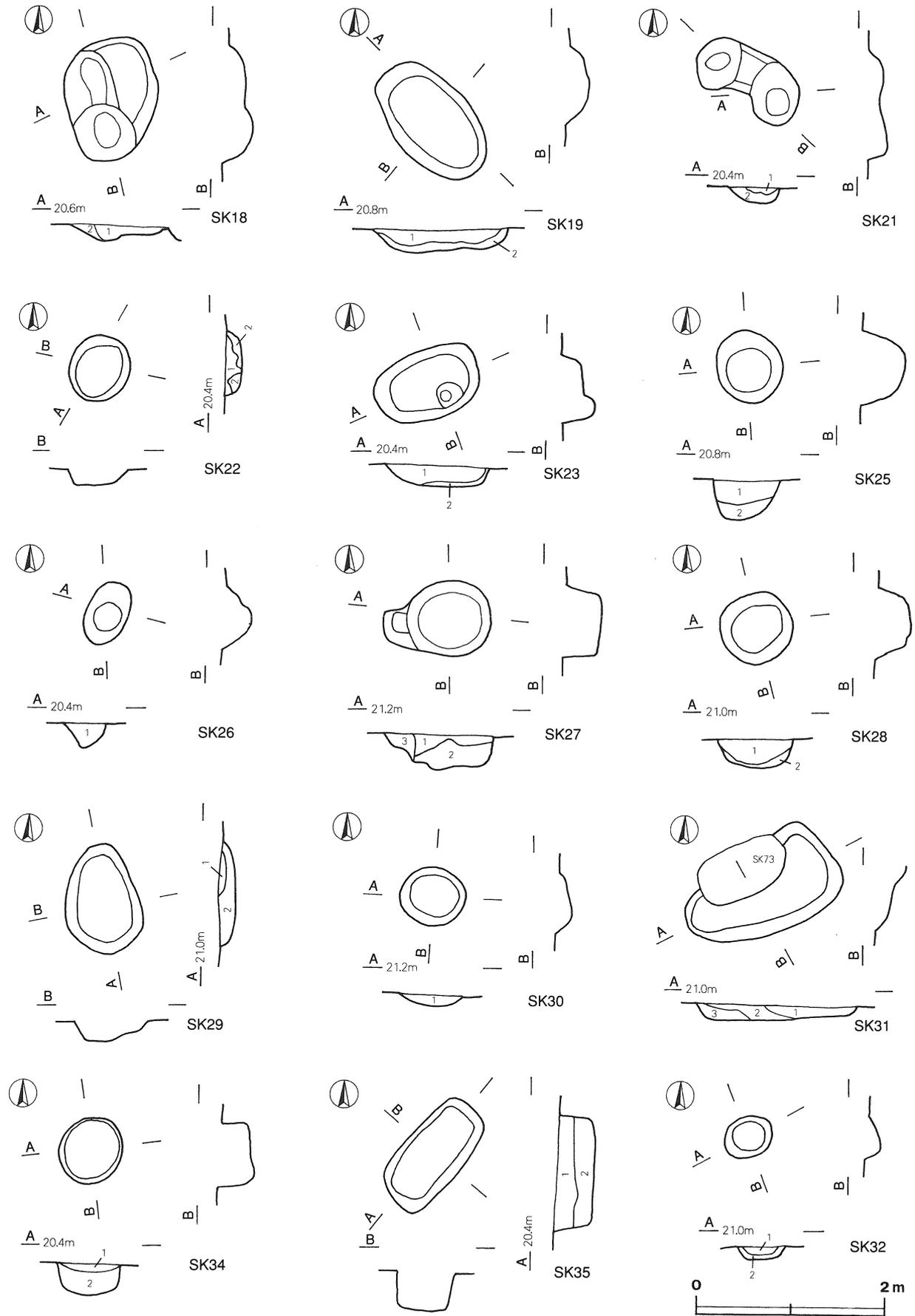
第13号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

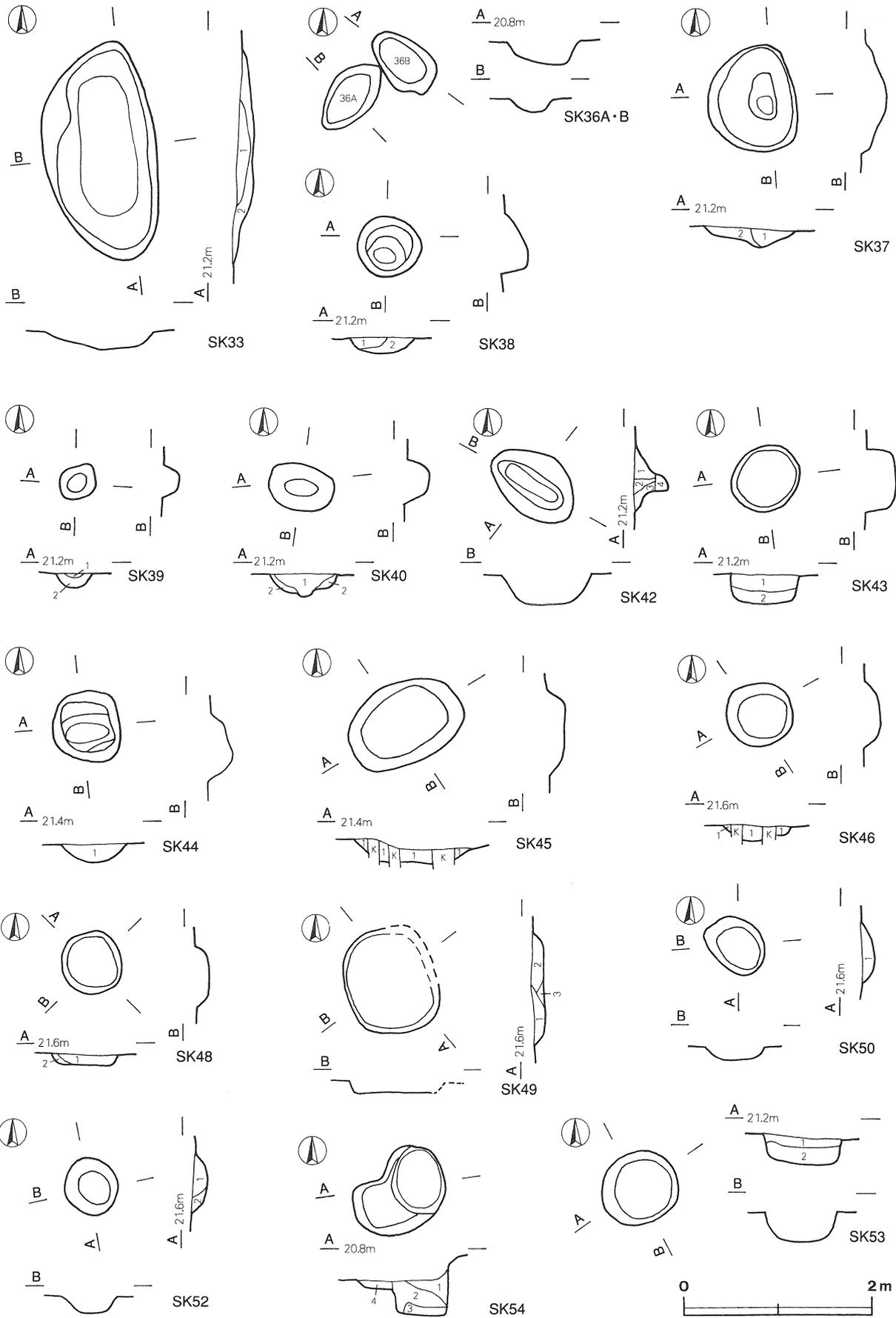
2 暗褐色 ローム粒子少量



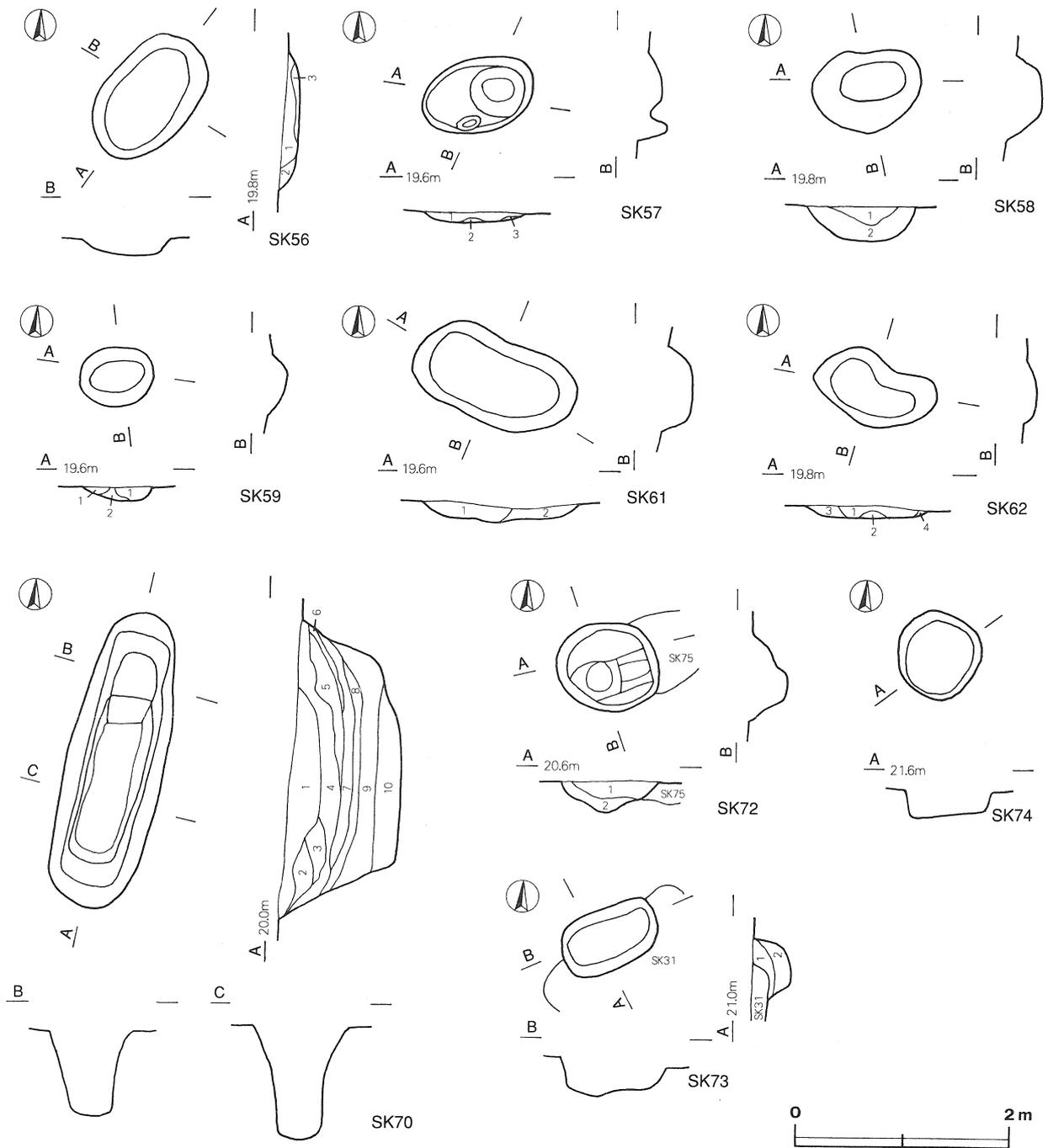
第12図 その他の土坑実測図 (1)



第13図 その他の土坑実測図 (2)



第14図 その他の土坑実測図 (3)



第15図 その他の土坑実測図（4）

第14号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第16号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第17号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第18号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第19号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第21号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第22号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第23号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第25号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第26号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

第27号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第28号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量

第29号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第30号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第31号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第32号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第33号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第34号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第35号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第38号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第39号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第40号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第42号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量, 締まり弱

第43号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第44号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第45号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第46号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第48号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第49号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第50号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第52号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第53号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第54号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第56号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第57号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第58号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第59号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第61号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第62号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック微量, 締まり弱

第70号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量, 粘性弱
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 締まり弱
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 褐色 ローム粒子多量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ロームブロック微量
- 10 褐色 ロームブロック多量

第72号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第73号土坑土層解説

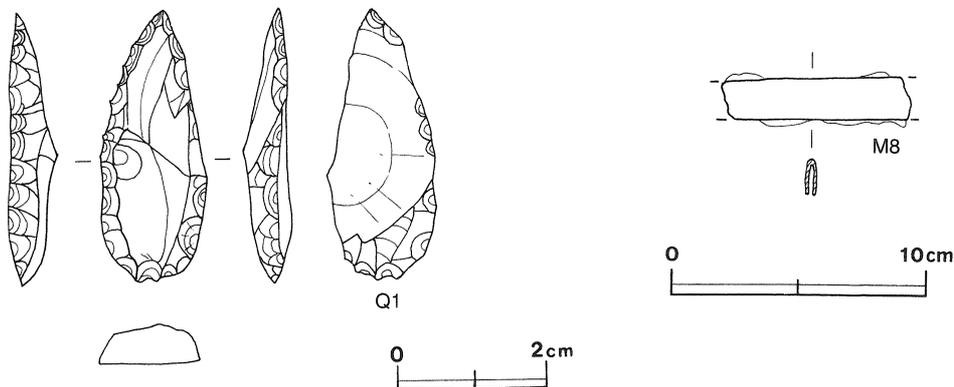
- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第2表 土坑一覧表

土坑番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (旧→新)
1	B 1 a8	N-75°-W	[楕円形]	0.88×(0.64)	9	外傾	平坦	自然		
2	B 1 b8	N-59°-W	楕円形	0.97×0.61	13	外傾	平坦	自然		
3	B 1 b8	—	円形	0.34×0.33	16	外傾	平坦	自然		SK4→本跡
4	B 1 b8	N-22°-W	楕円形	0.49×0.39	11	緩斜	皿状	自然		本跡→SK3
5	B 1 b8	N-66°-E	不整形	1.15×0.90	32	外傾	皿状	人為		
6	B 1 c8	N-29°-W	楕円形	0.82×0.65	16	外傾	平坦	自然		
7	B 1 f8	N-67°-E	長方形	0.84×0.58	19	外傾	凹凸	人為		
8	B 1 f8	N-55°-E	楕円形	1.03×0.82	22	外傾	皿状	人為		
9	B 1 d8	—	円形	0.86×0.80	28~35	外傾	凹凸	人為		
10	B 1 d8	—	不整形円形	1.08×1.02	15~20	緩斜	凹凸	人為		
11	B 1 e9	N-25°-E	楕円形	0.81×0.60	17	緩斜	皿状	自然		
12	B 1 c8	N-6°-E	楕円形	1.12×0.98	46	外傾	皿状	人為		
13	B 1 e9	N-83°-W	楕円形	0.82×0.68	18~24	緩斜	凹凸	自然		
14	B 1 b9	N-39°-W	不整楕円形	0.88×0.80	26	外傾	平坦	人為		
15	B 1 c9	N-35°-E	楕円形	0.60×0.53	14	緩斜	皿状	自然		
16	B 1 c9	N-75°-W	楕円形	0.66×0.52	22	緩斜	皿状	自然		
17	B 1 e0	—	方形	0.63×0.61	16	緩斜	皿状	自然		
18	B 1 e0	N-5°-E	楕円形	1.34×0.98	21~31	外傾	凹凸	自然		
19	B 1 f0	N-42°-W	楕円形	1.45×0.84	23	緩斜	皿状	自然		
20	B 2 e1	N-57°-E	楕円形	0.98×0.66	17	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
21	B 2 d1	N-56°-W	不定形	1.20×0.46	15~20	外傾	凹凸	自然		
22	B 2 d1	N-15°-E	楕円形	0.70×0.62	18	外傾	平坦	人為		
23	B 2 d2	N-64°-E	楕円形	1.10×0.77	23~36	外傾	凹凸	人為		
24	B 1 g9	N-78°-W	楕円形	0.90×0.80	24	外傾	皿状	自然	縄文土器	
25	B 2 f3	N-20°-W	楕円形	0.80×0.70	47	外傾	皿状	人為		
26	B 2 d1	N-19°-E	楕円形	0.71×0.44	28	緩斜	U字	自然		
27	B 2 h1	N-90°-W	不整楕円形	1.16×0.83	37	直立	平坦	人為		
28	B 1 g0	—	円形	0.78×0.76	38	外傾	平坦	人為		
29	B 1 g9	N-13°-W	楕円形	1.18×0.80	22	外傾	平坦	自然		
30	B 1 h0	—	円形	0.69×0.65	16	緩斜	皿状	自然		
31	B 1 g9	N-65°-E	不整楕円形	1.76×0.98	12~18	緩斜	平坦	人為		SK73→本跡
32	B 1 g9	N-56°-E	楕円形	0.53×0.44	16	外傾	平坦	自然		
33	B 2 h2	N-5°-W	楕円形	2.35×1.20	20	緩斜	凹凸	自然		
34	B 2 g3	—	円形	0.71×0.70	37	直立	平坦	人為		
35	B 2 c1	N-36°-E	長方形	1.28×0.63	42	直立	平坦	人為		

土坑番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	高さ (cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (旧→新)
36A	B 1 e8	N-40°-E	楕円形	0.90×0.48	14	外傾	皿状	—		
36B	B 1 e8	N-54°-W	楕円形	0.78×0.50	26	外傾	皿状	—		
37	B 1 i9	N-40°-W	楕円形	1.16×0.95	28	緩斜	凹凸	自然		
38	B 1 i9	—	円形	0.68×0.65	26	外傾	皿状	人為		
39	B 1 j0	—	円形	0.45×0.38	16	外傾	平坦	人為		
40	B 1 j0	N-75°-W	楕円形	0.70×0.50	26	外傾	平坦	自然		
41	C 1 a0	N-57°-E	不定形	1.34×0.86	24	外傾	平坦	人為	縄文土器	
42	B 2 i2	N-58°-W	楕円形	1.00×0.69	34	外傾	皿状	人為		
43	B 2 i3	—	円形	0.74×0.68	33	直立	平坦	人為		
44	B 2 j2	—	方形	0.75×0.72	24	外傾	凹凸	人為		
45	C 1 a9	N-58°-E	隅丸長方形	1.27×0.91	19	外傾	平坦	自然		
46	C 1 c9	—	円形	0.70×0.68	18	外傾	皿状	自然		
48	C 2 g1	—	円形	0.68×0.64	14	外傾	平坦	人為		
49	C 2 f1	N-21°-W	[楕円形]	1.14×[0.94]	13	外傾	平坦	人為		
50	C 2 c1	N-41°-W	楕円形	0.68×0.53	14	外傾	皿状	自然		
52	C 2 h1	—	円形	0.62×0.58	18	外傾	皿状	自然		
53	B 1 i0	—	円形	0.85×0.76	33	外傾	平坦	人為		
54	B 2 f3	N-49°-E	不定形	1.04×0.74	7~50	外傾	平坦	人為		
56	A 1 j0	N-36°-E	楕円形	1.30×0.80	16	緩斜	平坦	人為		
57	A 2 i1	N-65°-E	楕円形	1.08×0.74	22	緩斜	凹凸	人為		
58	A 1 i0	N-74°-E	楕円形	1.03×0.78	30	外傾	平坦	自然		
59	A 1 i0	N-72°-E	楕円形	0.72×0.55	14	外傾	皿状	人為		
61	A 1 h9	N-69°-W	楕円形	1.55×0.83	27	外傾	平坦	人為		
62	B 2 a1	N-80°-W	不定形	1.12×0.56	11	緩斜	平坦	人為		
70	A 1 i9	N-12°-E	楕円形	2.84×0.92	80~106	外傾	平坦	人為		
71	B 1 c0	N-64°-E	楕円形	0.96×0.87	24	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
72	B 1 e0	N-76°-E	楕円形	0.98×0.86	20~38	外傾	凹凸	人為		SK75→本跡
73	B 1 g9	N-63°-W	楕円形	0.98×0.57	37	外傾	凹凸	人為		本跡→SK31
74	C 1 e9	—	円形	0.85×0.80	27	直立	平坦	—		
75	B 1 e0	N-66°-E	[長方形]	(0.62)×0.70	16	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK72

(2) 遺構外出土遺物



第16図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q1	尖頭器	3.6	1.4	0.6	2.7	チャート	両面調整，側縁に丁寧な押圧剥離調整	遺構外	PL6

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴ほか	出土位置	備考
M8	不明	(7.4)	1.6	0.4	8.9	鉄	中心部で折り曲げている。留め金カ。	遺構外	50% PL6

第3節 ま と め

当遺跡の調査は，平成14年4月1日から4月30日の1か月間で実施され，竪穴住居跡1軒，地下式墳1基，土坑64基が確認され，古墳時代から中・近世にかけての複合遺跡であることが判明した。今回の調査だけでは当遺跡の全貌を把握することはできないが，確認できたいくつかの事柄を，ここで各時代ごとにまとめた。

1 旧石器時代から縄文時代

旧石器時代においては，遺構の発見や遺構に伴う遺物の検出には至らず，確認面で尖頭器1点が出土していただけであり，活動の痕跡は確認できた。同じく，縄文時代においても，住居跡などの遺構は検出されていないが，縄文土器が少量ながら出土している。

2 弥生時代から律令期

竪穴住居跡が調査区北部で検出されている。本跡は一辺3mほどの方形の住居跡であり，床面直上中央部から弥生時代後期の土器片と，古墳時代前期の土師器がほぼ同レベルで検出されている。弥生土器は，同一個体と考えられる後期後半の南関東系壺形土器片3点である。土師器は口縁端部が波状を呈する甕1点，底部が張り出した坏1点が出土している。これらに類似した土師器は，当遺跡南方の鳥名境松遺跡や北方の鳥名前野遺跡から出土している。また，南関東系土器については，つくりが稚拙であるが，搬入品と考えられ，南関東系文化圏との交流を想定することができる。

また，古墳時代中期の遺構・遺物は確認することができなかった。しかし，須恵器片が出土していることから古墳時代後期から律令期の時期には，調査区域外に該期の集落などの存在が考えられる。

3 中・近世

今回の調査区域からは中世の遺物・遺構は検出されなかったが，近世においては，墓壇1基が確認されている。この墓壇からは古銭5枚，煙管1，銅鏡1と人骨片が出土している。古銭は「文銭」2枚と「新寛永」3枚であり，渡銭と考えられる。また，煙管は，肩の張りのない18世紀後半以降に流通し始めたとされるもので，銅鏡は鉄鉢型であり，一般的に陶磁器碗・漆器碗類の副葬品を意識したものと考えられるが，被葬者は僧籍者の可能性も考えられ，埋葬時期は18世紀中頃と想定される。また，墓壇は地下式墳の形状を呈する形状で珍しく，周辺遺跡を見渡しても類例は確認できなかった。これらは，遺物が少ないために時期不明とされているものが多く，この時期の検出例の少ない当地域においては，今後類例の増加が待たれるところである。

参考文献

- ・久野俊度「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内文化財調査報告書 境松遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集
1987年3月
- ・寺門千勝「鳥名前野東遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- ・田原康司「鳥名境松遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- ・稲田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- ・藤田哲也・川上直登・稲田義弘「鳥名前野遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- ・菊池健一『千葉市戸張作遺跡Ⅱ』財団法人千葉市文化財調査協会 1999年3月

写 真 图 版



遺構完掘状況（北から）



第1号住居跡遺物出土状況



第 1 号住居跡
完 掘 状 況

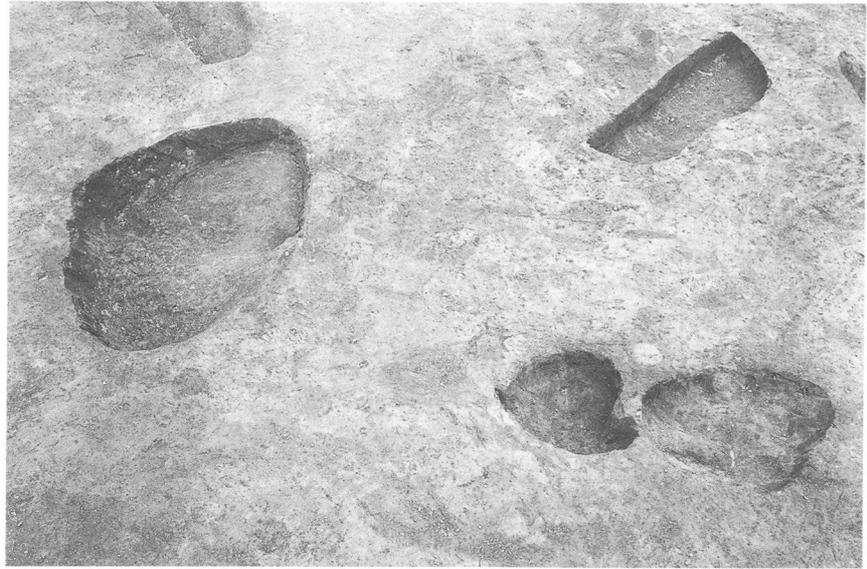


第 1 号地下式壙
遺物出土狀況①



第 1 号地下式壙
遺物出土狀況②

第 2·3·4 号土坑
完 掘 状 况

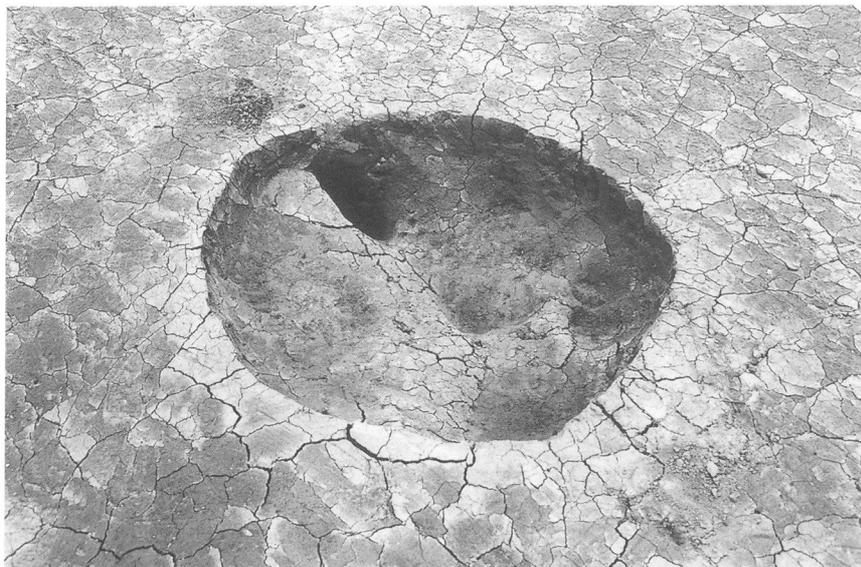


第 20 号土坑
完 掘 状 况

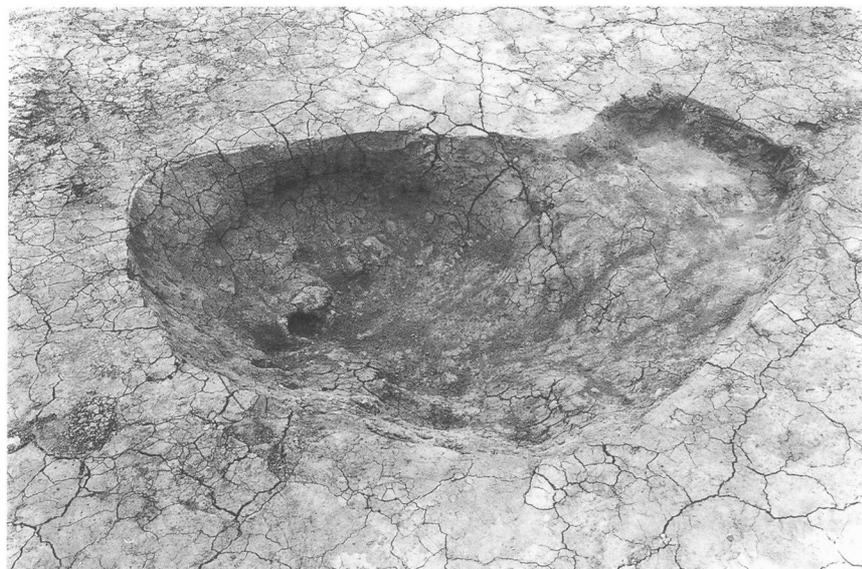


第 22 号土坑
完 掘 状 况

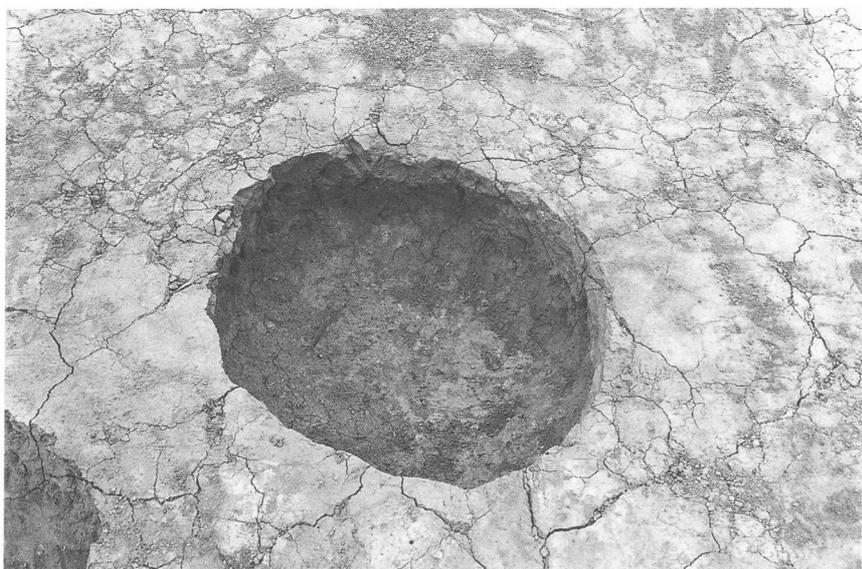




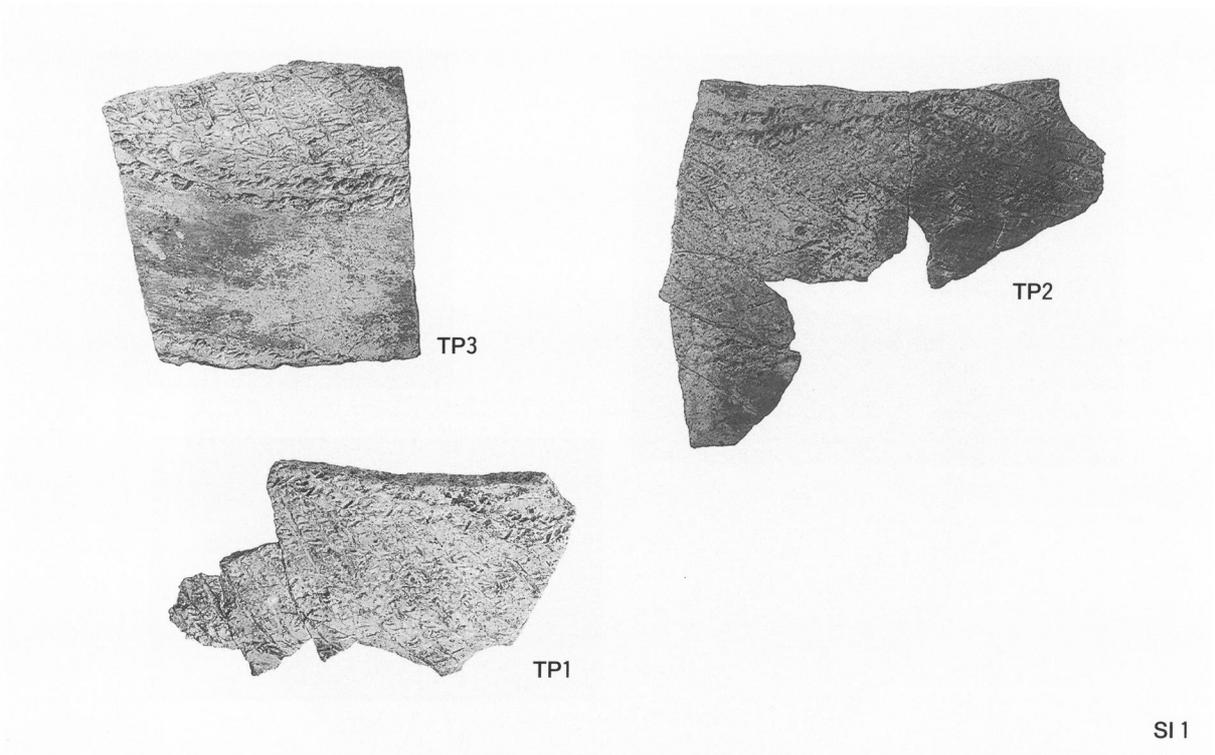
第 24 号 土 坑
完 掘 状 况



第 41 号 土 坑
完 掘 状 况



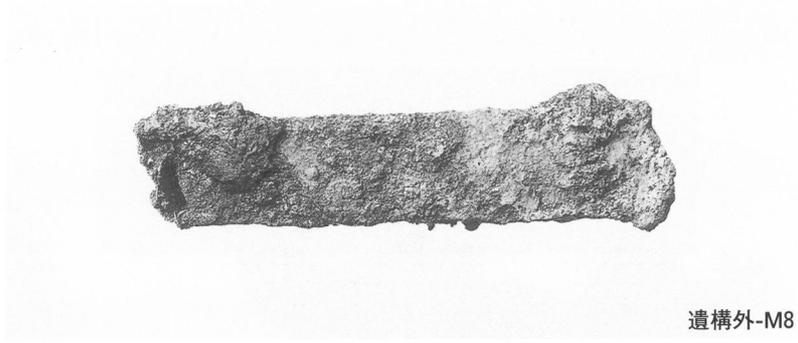
第 43 号 土 坑
完 掘 状 况



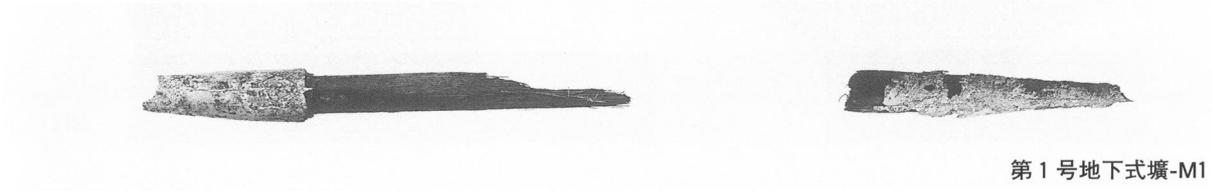
P L 6



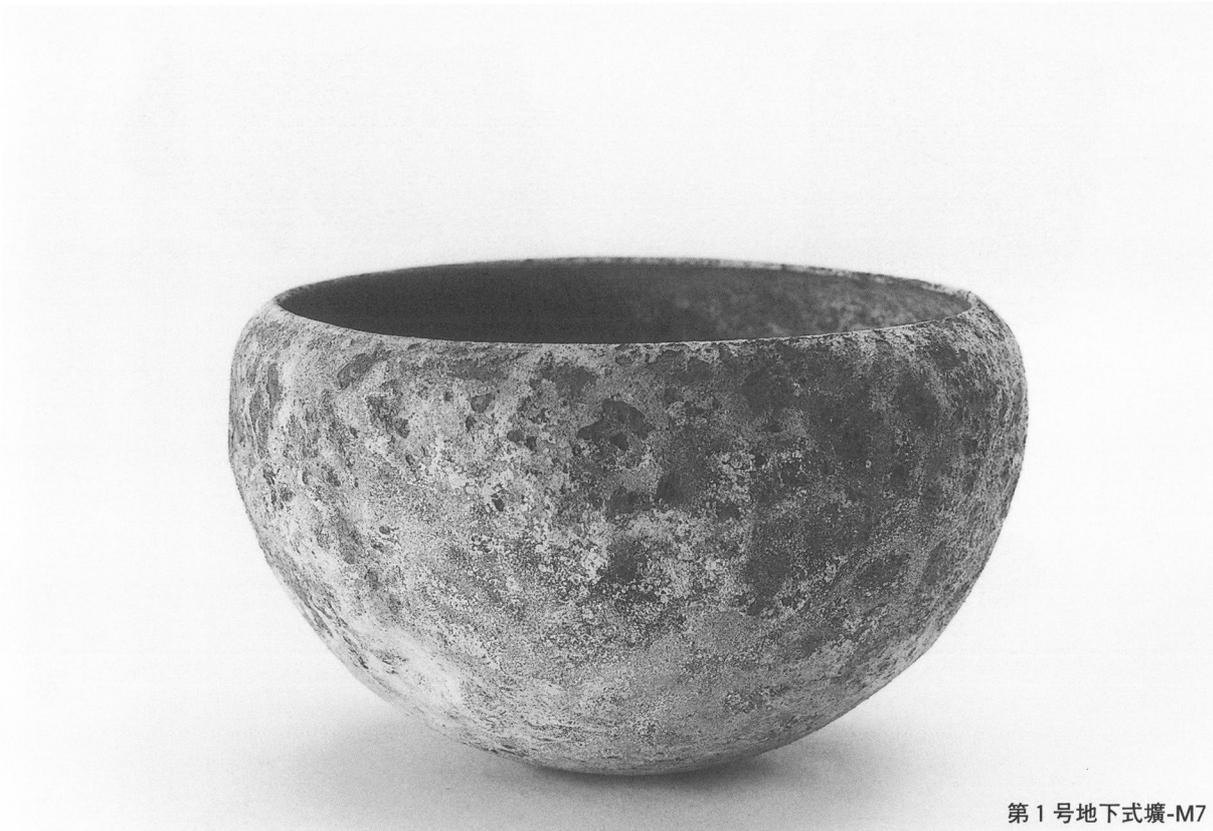
遺構外-Q1



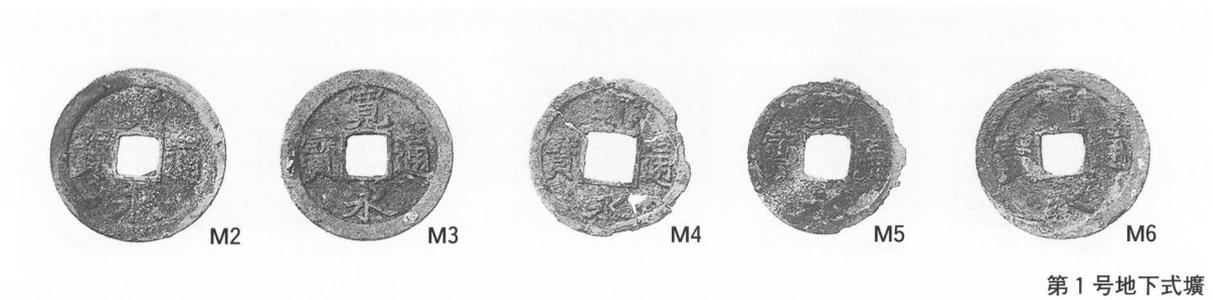
遺構外-M8



第1号地下式壙-M1



第1号地下式壙-M7



第1号地下式壙

第1号地下式壙・遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第230集

島名一町田遺跡

平成16(2004)年3月24日 印刷

平成16(2004)年3月26日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 イセブ
〒305-0005 つくば市天久保2丁目11-20
TEL 029-851-2515